

117th IBB & 3rd LMC Seminar

ペプチドミメティクとヘテロ環化合物 を基盤とした創薬研究

演者：上田 聡 博士
岐阜薬科大学
薬化学研究室 助教



日時：平成 22 年 3 月 26 日（金）18:00～19:00

会場：生体材料工学研究所 3 階セミナー室

Abstract:

創薬研究を効率的に進めるためには、創薬候補化合物を迅速に見出す方法が必要になります。環状 5 残基ペプチドは主鎖骨格がリジッドに固定されており、側鎖官能基の方向を決定することができますので、創薬テンプレートとして有用であると考えられます。私たちはこの環状 5 残基ペプチドを活用して、ケモカイン受容体アンタゴニストを創出しましたので、その研究内容をお話します。また、“くすりらしさ”を有する多様な構造を構築できる多様性指向型合成法の開発は創薬候補化合物の創出に重要であると考えられます。そこで私たちは、銅触媒を用いる C-H 活性化による種々のヘテロ環合成法を確立しましたので、併せてお話ししたいと思います。

お問い合わせ：生体材料工学研究所
デザインナノテクノロジー分野
糸谷(内線 8036)、玉村